

織維産業の活性化に向けた取り組み

「三河木綿」の復興

蒲郡の織維産業を盛り上げるために、他の产地とは違う、「三河織維产地」ならではの产地ブランドイメージの創出が必要であると考えました。

そこで目を付けたのが、「三河木綿・三河縞」です。「三河木綿」を「三河織維产地のシンボ

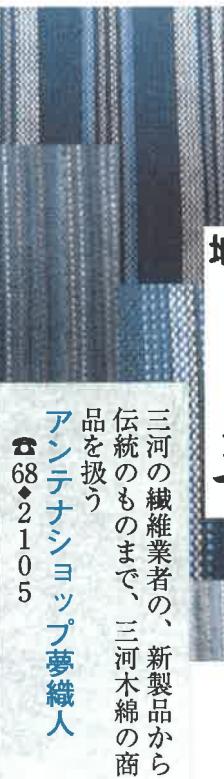
ル」として、次の3つの場所を中心とし、体験や復元など、さまざまな取り組みを行なう「三河木綿」のPRやイメージアップに取り組んでいます。

これらの活動が認められ、「三河木綿」が平成19年に地域ブランドとして商標登録されました。

江戸時代までさかのぼり、昔ながらの製造方法で「三河木綿・三河縞」の復元に取り組む

三河の織維業者の、新製品から伝統のものまで、三河木綿の商品を扱う

アンテナショップ夢織人



鈴木さんがテキスタイルデザイナーとして蒲郡に来たのは昭和39年。以来50年近く、蒲郡の織維産業に深く関わり、今年、コットンサミットの実行委員長を務めます。

当時は盛んだった織維産業は、時代が動き、平成10年頃には大変な落ち込みを見せました。蒲郡の織維産業の窮地を立て直すためにたどり着いたのが「棉」と「三河木綿」。

「根っここのない産業は長続きしない」と考える鈴木さん。「三河に伝わった『棉』。蒲郡では棉を作り、糸にして、商品にするということをやっていた。これこそ原点。蒲郡ならでは」

鈴木さんがテキスタイルデザイナーとして蒲郡に来たのは昭和39年。以来50年近く、蒲郡の織維産業に深く関わり、今年、コットンサミットの実行委員長を務めます。

当時は盛んだった織維産業は、時代が動き、平成10年頃には大変な落ち込みを見せました。蒲郡の織維産業の窮地を立て直すためにたどり着いたのが「棉」と「三河木綿」。

「根っここのない産業は長続きしない」と考える鈴木さん。「三河に伝わった『棉』。蒲郡では棉を作り、糸にして、商品にする」ということをやっていた。これこそ原点。蒲郡ならでは」

それからは「三河木綿」の復興

のみにとどまらず、新しい技術を取り入れ、発展させ、事業化を目指す取り組みが始まります。

「いかにそこにあるものに魅力をつけるか、未来に希望を作り上げるか」という、夢織人、手織場、クラフトセンターからミカワ・コットン・プロジェクトまで続く鈴木さんの想い。

サミットは、この取り組みを市民に、全国に発信するための「絶好のチャンス」であり、発信することで「今までずっとやってきたことの夢が達成できる」と鈴木さんは語ってくれました。

「三河木綿」が、蒲郡の織維産業を未来へと繋ぎます。

三河から未来へ コットンから希望を



全国コットンサミットin蒲郡

実行委員長

鈴木 敏泰さん(70歳)